

国語科授業案

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-08-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 梶山, 哲耶 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00026738

国語科授業案

授業者 梶山 哲耶

- 1 日 時 平成 30 年 10 月 12 日 (金) 第 1 時 10:15~11:05
- 2 学 級 3 年 A 組 (3 年 A 組教室)
- 3 題材名 「校歌で MV (ミュージックビデオ) 制作をする効果」
—教科横断系の MV 制作過程を通じて磨かれる言葉のチカラ—

4 題材の目標

ミュージックビデオ (MV) の歌詞や映像には制作者のメッセージが盛り込まれていることを理解した子どもたちが、校歌の MV を制作する営みを通して、MV を仲間と共に制作していく楽しさを味わうとともに、詩歌に込められた作者のメッセージを読み解いたり、仲間の主張やその背景を慮りつつ、自らの考えを発信しながら合意形成を図ったりすることができる。

5 題材観

(1) はじめに

先日、娘とともに「北風小僧の寒太郎」の動画を視聴しました。そのとき彼女が「どうして切った葉っぱが雪になったの？」と寒太郎が刀を抜いた瞬間のことを質問してきました。

そのとき授業者 (父) は、歌詞と映像とを分析し、秋から冬への季節の移り変わりを、北風小僧の勘太郎として象徴しているからだを読み取りました。そして、このような動画を制作する際、そこに携わる人々は歌詞からイメージしたものを映像に盛り込んだのだな、と思索しました。

その場で娘にしっかりとした返答はしませんでした。このような経験から、音楽と共に流れる動画「ミュージックビデオ (MV)」には、国語科として育む力があると捉え、今回の題材を決定しました。

(2) ミュージックビデオ (MV) について

動画配信サイトなどで視聴する動画は、大きく二つに分類されます。それらは、「ミュージックビデオ (MV)」と「プロモーションビデオ (PV)」です。

MV は、音楽のために作られた映像のことで、PV は、販売促進用の映像のことを言います。

現在流れている動画にはどちらの要素も含まれていることが多く、それぞれの明確な区切りはないことから、音楽に合わせて流れる動画は基本的に MV と総称されています。

(3) MV の変遷

MV の出発点として挙げられるのは、1981 年から放送が開始されたアメリカの MTV (音楽番組専門のケーブルテレビ放送局) です。The Buggles の「Video Killed The Radio Star」を MV 形式で放送したところから、MTV がミュージックシー

ンを牽引する先駆的な映像メディアとして世界中から熱狂的な支持を受けていきました。

日本では、1993 年の「カウントダウン TV」から、民放音楽チャート番組での MV の使用が一般化されていきました。2000 年に入ると状況が変化し、ある程度の知識をもった人ならば、ソフトを利用して容易に動画撮影や編集が可能になりました。そのため、多くのクリエイターが MV の文化に参加することが可能となったのです。

近年では、動画サイトの登場により、容易にプロアマ関係なく自ら作成した動画を投稿することができるようになり、MV がより身近なものとなった反面、注目を集めるためにさらに MV の独自性を高めていく必要が生じました。

その成功例として有名なのは、サカナクションという音楽グループです。上のように MV を駆使してファンを獲得しました。

彼らは、自分たちの音楽性がインターネットとの親和性が高いと判断し、早い時期に SNS を利用しました。さらに、「YouTube」で見られる映像は「何でもありの CG より、ハプニングや偶然性を感じさせる映像の方がひきつけられる」と考えて制作をはじめ、独創的な MV を完成させていきました。

さらに、当時は動画配信サービス内において、違法にアーティストの MV をアップロードすることが問題視されていましたが、そのような時期に彼らは MV を公式にアップロードしたのです。

そのため、視聴者はその独創的な MV を理解しようと動画を繰り返し再生したり、別の MV を見ようとしてみたりということが可能となり、彼らの提供する音楽に親しみを覚える人たちは増えたと言えるでしょう。

つまりは、MV を効果的に用いることによって自然とファンを増やすことに成功したのです。

このように、MVの出発点とされるMTVの開始から 37 年が経ち、MV のもつ意味が変遷していったことがわかります。それと同じくして、私たちがMVを単なる楽曲の付属的なものとしてではなく、制作者のメッセージを反映させたものとして視聴する文化が形成されていったと考えられるでしょう。

その結果、視聴するだけでなく、MVにどのような意図が込められているのかを思考する楽しみや、読み取った内容を仲間と語り合う楽しみが生じたと言えます。ここに国語で育む力が存在すると考えられます。

(4) MVの制作

さて、そのようなMVはどのように制作されるのでしょうか。映像制作では大きく三つに分けられます。「①プリプロダクション（撮影前）」「②撮影」「③ポストプロダクション（撮影後）」です。

①プリプロダクション pre-production

プリプロダクションとは、撮影する前の計画や準備として、企画書やコンテをもとにしてクライアントにプレゼンテーションを行い、撮影内容を正式に決め、スケジュールを組む作業のことです。

企画においては、制作の目的をはっきりとさせ、そのために何をどのように見せたらいいのかを考え、企画書としてアイデアを文章やコンテに落としこんでいきます。

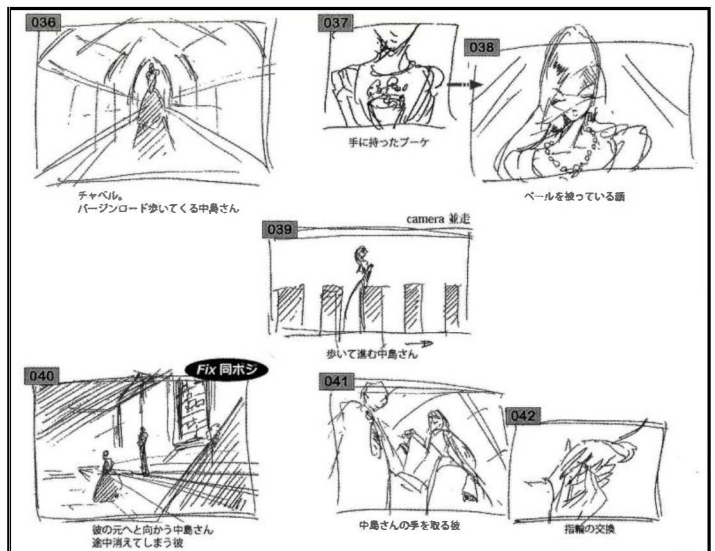
【企画に不可欠な5W2H】

- ・ 何のために Why → 広告、宣伝、集客など
- ・ 誰に向けて Whom → 年齢、性別、生活など
- ・ いつ When → 放映期間、季節など
- ・ いくらで How much → 機材、スタジオなど
- ・ 何を What → 訴求ポイント、ストーリーなど
- ・ どこで Where → ロケ地、スタジオなど
- ・ どうやって How → カメラワークなど

企画書がまとまったらプレゼンを行います、その際にコンテは欠かせません。コンテとは、撮影台本のことで、シナリオをもとにして、1カットごとの画面の構成や登場人物の動き、カメラの位置など、演出上の指定を詳細に記したものです。

そもそもコンテを書くにあたっては、作品の構成を考えておかなくてはなりません。まず、表現するものがどのようなテーマをもっている作品なのかを吟味しておく必要があります。

企画の許可が出たら出演者やスタッフ、撮影方法や演出方法、ロケ地などの具体的なことを決めます。また、スケジュールを立てることで無駄な時間を生みださないようにします。



上のコンテは、中島美嘉氏「明日世界が終わるなら」のMV制作過程で実際に使用されたものです。映像クリエイターである田所貴司氏が中心となってMVの制作を行いました。

このMVのテーマは「結婚式」「戦う女戦士ジャンヌダルク」です。そのテーマは歌詞の言葉に基づいて考えられました。歌詞には直接「結婚式」や「ジャンヌダルク」といった言葉はありませんが、言葉から得られるメッセージを考え、そのように決定したそうです。

②撮影

撮影の段取りを、わかりやすくまとめた香盤表（出演するすべての俳優の名と出場と役とを表示したもの）に従って進めます。いつ、どのような内容を撮影するかがはっきりしているため、その場で何を撮るのか迷ってしまうと時間を無駄にすることになってしまいます。また、構図についても事前に練っておかなくては全体像がつかめない状況となります。

③ポストプロダクション post-production

ポストプロダクションとは、撮影したデータや素材などを編集して映像として完成させていく作業のことを言います。

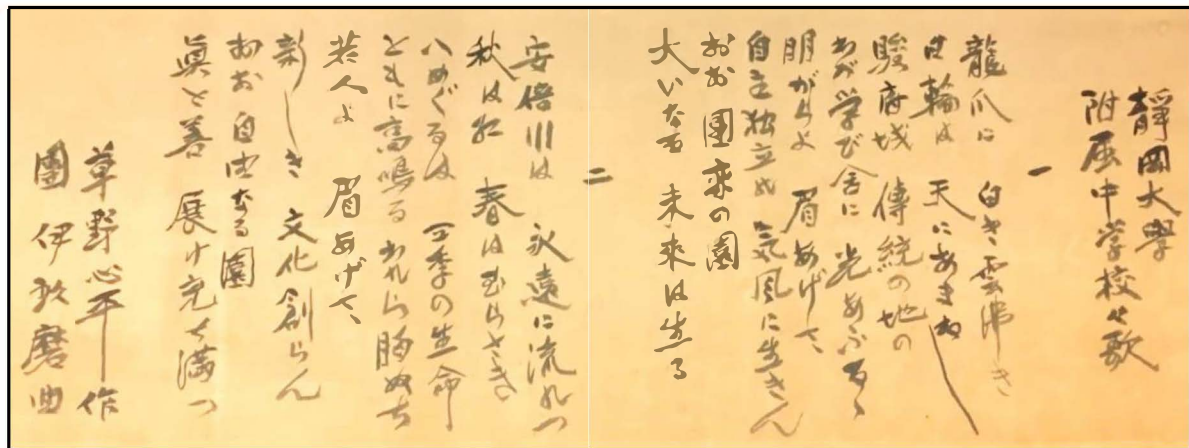
そして、完成したデータをメディアに移すなどして視聴できる状況となって完成となります。

上でも説明しましたが、MVの制作では「何を」が最も重要となるでしょう。なぜなら、作品のテーマは歌詞を読む人によって様々だからです。

そのため、映像制作の文化において、仲間との語り合いは欠かせないものとなるでしょう。どのように作品をとらえ、どのようなテーマを設定したのかを仲間と共に語り合うことで「自分たちの創りたいMV」を合意形成していくことは、MV制作の醍醐味の一つです。

(4) 校歌と、校歌で制作する理由について

のような幸福に包まれてゐる。地上の夏の大歓喜



本校の校歌の歌詞 草野心平 直筆の書

本校の校歌は、昭和44年に制定されました。作詞は「河童と蛙」や「冬眠」「春のうた」など教科書に多くの詩が掲載されている草野心平さんです。

本校の記念誌には、彼が本校を訪問し「校舎や教室を見ることはあまり重要ではない。校舎は何度でも新しく作りかえることができる。私は、その学校の心をつかみたいのだ」と述べ、当時の様子から校風を把握しようとしたことがわかります。

彼は他にも97校の校歌を作詞していますが、「自由なる園」や「団欒の園」は他には用いられていません。そこには、本校へ向けた草野心平さんからのメッセージが込められているように感じます。

再び来校したときには、歌詞についての講演を行いました。その年の生徒会誌に以下のような当時の中学生の感想が残されています。

- ・校歌というものは、いわばそこにいる生徒の心のよりどころ、シンボルでなければならない。
～中略～要は校歌の風格とか良さは、曲や詞の良さばかりでなく、それを歌う人の心が大切である
- ・月日がたち、校舎も建て直し、新しい施設ができて、また、この附属中が静岡から消えることがあっても、この校歌や校章は、ぼくたちの脳裏に焼きついて離れないだろう。～中略～この校歌の中には、ぼくたちがこの三年間、苦しみ、悩み、喜び、励まし合ったことが生き続けているのだから

さて、詩人である草野心平さんは「蛙」を詩の題材にして詩を作成することで有名です。その特徴的な詩を紐解くことで、校歌に込められた草野心平のメッセージが見えてきそうです。

まず、蛙の中でも最長老とされる「ごびらっふ」が独白する詩では、「幸福といふものはたわいなくっていいものだ。おれはいま土のなかの露(もや)

の。夜ひる眠らない馬力のはてに暗闇のなかの世界がくる」や「うつらうつらの日をすごすことは幸福である」という言葉が登場します。そこから、蛙として生きることの幸せをテーマとしていることが読み取ることができます。

次に、冬が迫る中で蛙たちが話をする「秋の夜の会話」では、「土の中は嫌だね」や「死にたくはないね」などの言葉が見られ、これから冬眠を迎える寂しさ、死への恐れをテーマとしていることが印象づけられます。

そして、「●」の1文字で広く知られる「冬眠」では、諸説ありますが、土の中で行動をやめる、ある種の死を表現していると考えられそうです。

最後に、冬眠から脱したときの詩「春のうた」では「ほっうれしいな。」と地上に出られた喜びを、蛙の視点の変化とともに描いています。

これらの詩から、草野心平さんは「生」に対して強い思いを表現していると考えられそうです。

では、本校の歌詞を見てみましょう。一連と二連を比べてみたときの構成が、同じであることがわかります。

前半3行からは自然の風景が書かれ、中盤の4行目から最後の行までは「朋がら」や「若人」など中学生を指しつつ「自主独立の気風に生きん」や「新しき文化創らん」と「生き方」について示しています。このようなことから、自然と人の対比があると読み取ることができます。また、「自由なる園」と「団欒の園」の対比も読み取れます。

四季の生命は「へめぐる」ため悠久性を感じさせますが、中学校生活は3年という期限があります。その期間を懸命に楽しく生きてほしいというメッセージが込められているように感じます。

以上より、校歌はメッセージ性も強く、本校で3年間生活をする子どもたちにとって行事の度に何度も歌う思い入れの強い曲であるため、MVを制作する題曲としてふさわしいと考えました。

そして、先ほども述べました通り、MVにはPVの意味合いも含まれています。折角なので、今後本校に入学する予定の子どもたちや保護者に向けて開かれる「学校説明会」の場で、完成したMVを上映したいと考えています。

(6) MV制作における国語

本題材でどのような国語の力が育まれるのでしょうか。本来、校歌は「歌」であり音楽科の題材とも言えますし、映像はビジュアル表現と捉えれば美術科の題材とも言えるかもしれません。動画の編集は技術科の領域でしょうか。

しかしながら、私たちのMV文化への接し方を考えたときに国語の力を用いる場面が多いことが考えられます。MVには、受信側の文化と送信側の文化があるからです。以下に、受信側を①、発信側を②、③として国語との関連を説明します。

①表現されたものを言語化して思考する

アーティストの作詞した言葉の多くは、思いに基づいています。また、MVで用いられた映像に、歌詞との関連性や制作者の意図が込められています。歌詞を詩として捉え、どのようなものが表現されているのかイメージを膨らめていったり、読み解いたりしていくことや、映像を言語化したりすることは、新学習指導要領の「精査・解釈」における「表現の解釈」、「構造と内容の把握」における「論理や物語の展開の仕方などを捉えること」に通じます。そのため「読むこと」の力を育むことにつながると考えられます。

②思考したものを表現していく

MVを「学校説明会で上映する」という企画を立ち上げ、歌詞から得たものを企画書やコンテにまとめていくことは「構成の検討」にある「文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫すること」や、「考えの形成・記述」の「表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章となるように工夫すること」につながると考えられます。このようなことから「書くこと」の力を育むに適していると言えます。

③表現をもとに創りあげていく

自分たちがまとめた企画書やコンテを、周囲へ説明して理解を得たり、よりよいものを創りあげるために対話をしたりしていくことは「話し合うこと」の「進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること」につながると

考えられます。「話すこと・聞くこと」についての力も育むことができるとしても過言ではないでしょう。

(7) 本題材における国語科ならではの文化

本題材では、MVを制作する中で「創造力や感受性を働かせてMV制作者の意図や草野心平の歌詞のテーマを読み取っていくこと」、「言葉を吟味しながら企画書を作成し、どのようなMVを制作したいのかという自分の思いを発信したり受信したりしていくということ」を国語科ならではの文化として捉えます。

つまり、校歌の歌詞を詩として捉え、多様な視点から読むことで本質を追求したMVを製作するという過程こそが国語科ならではの文化であるということです。

このような文化を味わう際に、子どもたちは作者の用いた言葉にこだわりをもって読み解かなければ作者の意図や思いに気づくことはできないと感じるでしょう。また、自分の思いを正しく伝え、相手の考えを理解して合意形成を図るためには、「話すこと・聞くことの力」を意識しなければならないと感じることでしょう。

そのため、「MV」を受信したり制作したりする営みに浸ることにより、自然と読む力や書く力、話す・聞くといったコミュニケーション力を豊かにすることができるとともに、子どもたちの「言葉の力」が磨かれていきます。このような文化的な実践により、子どもたちの「資質・能力」や「見方・考え方」が育まれていくことでしょう。

(8) 題材と子どもたち

本校では、校訓「真善美」「自主独立」のもと、子どもたちが学校生活に打ち込んでいます。そのような3年間で経験したことは、子どもたちに思い出として大きく残っていることでしょう。校歌を国語的にとらえ、作者のメッセージを理解したうえでMVを制作していく過程において、本校に対してさまざまな思いをもった子どもたちは、より多様な表現を生んでいくことが考えられます。

今回の題材では、先ほど述べたような国語の力を高めるだけでなく、自分たちの学校生活を改めて見つめ直すとともに「残された日々をどのように過ごしていくか」というところまで目を向けていくことになることが期待されます。

この題材を終えた子どもたちが、校歌を心のうちの大事なものをしまっておく箱に入れ、ふとしたときに思いだせるような貴重な経験となることを願い、授業を行います。

参考文献：田所貴司(2016)『映像制作スタンダードブック』 誠文堂新光社
 古屋蔵人，庄野祐輔，塚田有那(2012)『メディア芸術アーカイブ』 ビー・エヌ・エヌ新社
 株式会社ロッキング・オン(2013)『ロッキング・オン・ジャパン VOL. 414』 株式会社ロッキング・オン
 静岡大学教育学部附属静岡中学校（1997）『自主独立』 静岡大学教育学部附属静岡中学校
 参考資料：いわき市立草野心平記念館「校歌展展示資料」

6 新学習指導要領との関連

C 読むこと

- ア 文章の種類を踏まえて，論理や物語の展開の仕方などを捉えること。
- ウ 文章の構成や論理の展開，表現の仕方について評価すること。

B 書くこと

- イ 文章の種類を選択し，多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて，文章の構成を工夫すること。

A 話すこと・聞くこと

- オ 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い，合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。

7 題材構想（全 10 時間）

- (1) 題材との出会い（1 時間）
- (2) MV の読解（1 時間）
- (3) 校歌の読解とテーマの決定（3 時間 本時はその 2）
- (4) 企画のプレゼンテーション大会（2 時間）
- (5) 撮影（2 時間）
- (6) 上映（1 時間）

(1) 題材との出会い（1 時間）

授業者は，まず子どもたちにこれから校歌でミュージックビデオ（MV）を制作することを伝えていきます。また，完成したMVは新入生の学校説明会で上映することも伝えます。次に，MVを見たことがあるか尋ねます。すると，多くの子どもたちが「見たことがある」と反応することでしょう。

その後，授業者は岡崎体育の「ミュージックビデオ」というMVを見せます。MVでよく起こることを楽曲として表現していますが，「そのようなMVを見たことがあるのか」「そのシチュエーションが理解できるか」など，ある程度，子どもたちとのやりとりを楽しもうと考えています。

また，子どもたちに名作と思える，よいMVはあるかなげかけ，そこで挙げられたMVを視聴しながら，MVに親しむことができる素地を養います。

その後で SEKAI NO OWARI「サザンカ」の歌詞を配付します。歌詞を読む時間を十分にとった後に「サザンカ」のMVを見ます。そこにある制

作者のメッセージや意図を互いに語り合いつつ，MVとはどのようなものであるのかという点について話が進んだところで，授業を終えたいと思います。

- ・「夢を追う君へ」ということは，映像の弟を応援するところにメッセージが込められている
- ・「主人公は笑われる方」から，登場する兄の方がMVでは主人公として描かれているとわかる
- ・サザンカとは，冬に花開くからサザンカだ
- ・曲として聴いていたときの印象と，映像を見ながら聴いた印象と異なる
- ・MVによって，より作者のメッセージ性が伝えやすくなる

など

(2) MV の読解（1 時間）

前時に行ったことをふまえつつ，授業者は，あるアーティストのMVを分析していくことを伝え

ます。(あえて明かしません。) その際、歌詞と映像(音声なし)で分析グループを2つに分けていくことを提案します。

歌詞を追求していくグループは、言葉を頼りに以下のように追求していくでしょう。

- ・「カワハナガレル」は時間の流れを示しているのではない。鳥の声「曲」が流れて消えていくということにも通じていそう
- ・「ヨルハナガレル」は、「カワハナガレル」と似ている。こちらはプラス思考で考えるとよさそう。そうすると、「触れた」や「ナイティタ」は、人々にアーティストの思いが届いて影響があった、ということなのだろう
- ・自分だけが1人、何も反応することのない人々の中で生きていく状況になっている。そのようなときでも、自分は自分を見失うことなく生きていく、待っている人のために歌をということを歌っているのではない

など

映像から追求していくグループは、音声は流さずに映像のみで追求を行っていきます。言葉の意図や映像の構造をとらえることができるようにワークシートを用意します。

客観性をもってとらえようとした子どもたちは、以下のように追求していくでしょう。

- ・中心にいる男性と女性には、対比関係があるのかもしれない
- ・ヘッドホンで聴いている音楽は何だろう。パソコンで音楽を作っているのかな
- ・パソコンで入力しているものがよい方向へ行っているから、男性はニヤニヤしているのだろう
- ・女性はつらい目に合うが、最終的には青空の中で安心した顔をしているから、何かよい方向へ行ったと考えられそう
- ・女性は、眠ったり、雨を浴びたり、辛いことや楽しいことなど、日常を送っているのかもしれない。最終的に幸せを手に行っているようだし、きっと世間一般の女性について表現しているのだろう
- ・中心にいる男性が最後に部屋の中で世間と隔絶した状況にいて、なおかつ黒い水の上に椅子で座っているのは、登場人物がかなり追い込まれた状況にあることを示しているようだ。
- ・女性は日常を過ごすことができているが、男性は自分の殻に閉じこもり、孤独な感じがする。けれども、そこに悲壮感はないから、男性の中にそこにいる覚悟があるのかもしれない

など

そして、最終的にそれぞれが追求した内容を発表しつつ、どのような意図があったのかを探っていきます。

その際、この曲名が「ミュージック」であり、サカナクションというグループのものであると伝えます。全員に歌詞を配付し、MVを鑑賞します。その後、授業者は子どもたちにどのようなことを考えたかとなげかけます。きっと、以下のような内容が出てくるでしょう。

- ・単なる覗いている男性がいるという映像ではなく「世間」と「音楽家」の対比が映像で示されていたことがわかった。だからタイトルが「ミュージック」なのだろう
- ・山口氏は、音楽家として人生をかけて取り組んでいくという決意をこの「ミュージック」という曲で表現したと考えられる。それは、歌詞の「いつだって待っている」人々や「疲れた痛みや傷」をもつ人々がいるというところからわかる。また、映像のラストシーンで誇らしげなのも、女性の日常とはかけ離れた自分の人生に誇りをもっているからだと言えそう
- ・周りの人々は日常生活を満喫しているけれども、音楽に携わる山口氏からすると、それは遠い存在の人々であることがわかる。鳥のように歌い続け、音を届けることしかできない自分だけ、誰かの心にもふれることができるような音楽を作り続けていこう、という意志を感じた

など

このように、読み取りに深まりが見られたところで「ミュージック」制作当時のインタビュー記事を配付します。MVには歌詞から得られたテーマが反映されているということが確認されたところで授業を終えます。

(3) 校歌の読解とテーマの決定

(3時間 本時はその2)

まず授業者は、MVとはどのようなものであるかを子どもたちになげかけます。すると、以下のように発言するでしょう。

- ・歌詞の世界観を表現したもの
- ・歌詞のテーマを基にした歌と映像の合体
- ・アーティストの意図が表現されたもの

など

おそらく、歌詞と音楽のテーマに沿ったものであり、映像と関連させたもの、という内容に落ち着いていくことが予想されます。

そこで授業者は、これから校歌でMVを制作す

る際、どのような点に気をつけて制作するとよいかを子どもたちと確認していきます。

子どもたちは、以下のようなことを挙げていくと考えられます。

- ・わかりやすいものがいい。今まで見たMVは難解すぎる
- ・MVだから、ストーリー性のあるものをつくるべきだ
- ・歌詞を考えて、テーマを決めておく
- ・草野心平さんの意図をくむ必要がある
- ・歌詞にあった世界観を表現できるようにしたいなど

残りの時間は校歌の追求を行います。追求のためにジグソー学習の要素を取り入れて行います。追求する際の視点を4つ、①「校歌制定時の資料（本校50周年記念誌）」②「他校の草野心平の校歌歌詞（草野心平記念館より）」③「草野心平の詩を数編（『春のうた』『ごびらっふの独白』『秋の夜の会話』『冬眠』）」④「在校生としての歌詞の読解」を示し、それぞれが見いだしたテーマを持ち寄り、4つの視点からグループにおけるMV制作のテーマを決定していきます。

それぞれ、個人で以下のように追求していくと考えられそうです。

【①校歌制定時の資料より追求】

- ・校歌を制定したときには、「現代に生きる人間が共有できるセンスをもつものでありたい」「校風を象徴し、明るく、おおらかなものでありたい」「品位があり、格調の高いものでありたい」ということを大事にしていたようだ
- ・校風とは当時、何だったのだろうか。草野心平さんの講演の後の感想から考えると、3年間の生活が大事になるのではないか
- ・校歌の歌詞「文化創らん」とあるから、私たちが積極的に3年間を過ごす学校生活をテーマにしていくとよいのではないかなど

【②他校の草野心平の校歌歌詞より追求】

- ・「真善美」は何度も使われているようだ
- ・「竜爪山」「安倍川」などの風景をまず書くという構成が多いようだ
- ・「眉あげて」は他校の校歌にも使われている。前向きに取り組むというテーマにしよう
- ・「自由なる園」と「団欒の園」については、他の校歌には使われていない。そのように考えると、テーマは自由と団欒にしたらいかなど

【③草野心平の詩より追求】

- ・「春のうた」では「ほっうれしいな。」と地上に出られた喜びが書かれている
- ・「ごびらっふの独白」では、蛙として生きることの幸せをテーマとしていることが読み取れそう
- ・「秋の夜の会話」では、「土の中は嫌だね」や「死にたくはないね」などの言葉があるから、冬眠・死への恐れが書かれているね
- ・「冬眠」では土の中の暗さ、死を表現しているのかもしれない
- ・「生」を全うすることを大事にしているのかもしれないから、「生」をテーマにしたらいかなど

【歌詞の読解】

- ・5音と7音のリズムで書かれている
- ・「伝統の地」とあるから、歴史を感じさせることをテーマにしたらいかなど
- ・前半は自然を描いて、後半は生き方を書いているように感じる
- ・「自由なる園」と「団欒の園」は対句となっている。これをテーマにするとよいかもしれない
- ・「朋がら」と自分ではなく仲間を示すのはどうしてだろうか。学び舎にあふれる光が希望を示しているから、仲間と共に前向きになろうという思いがあるのだろう
- ・「へめぐる」と「若人」から、限りある附中生活を満喫していくことを草野心平はメッセージとして込めているように感じる。これをテーマにしていったらいかなど
- ・「若人」と「伝統の地」というところから、自分たちの活動が「文化」として根付き「伝統」として後々まで継承されて行くことを作者は願っているのかもしれない。自分たちの日頃の活動を重点にテーマをおいたらよさそうだなど

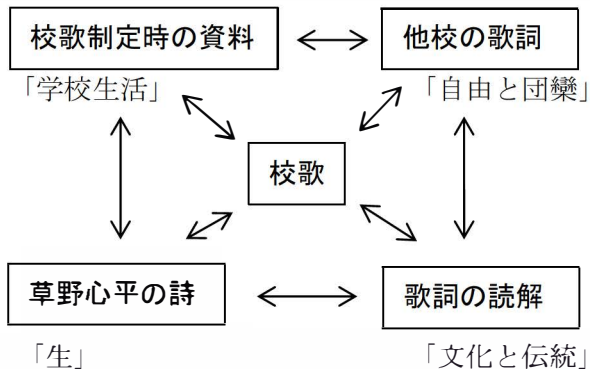
このような視点でそれぞれ追求していった子どもたちは、単に言葉のうえでの校歌の読み取りにとどまらないことでしょう。

校歌制定時、当時の子どもたちがどのような思いで校歌をとらえていたのかを知ることにより、理念をふまえてテーマを考えていくでしょうし、他校との比較によって、草野心平が子どもたちへ向けたメッセージを読み取ることにつながるでしょう。また、詩を読む視点からも同様なことが言えそうです。詩の解釈をすることで、上の視点から見いだしたテーマはより説得力が増すものとなっていきます。

個人追求により、一人一人のMV制作におけるテーマが決まりつつあるところで、グループで語り合いながら合意形成をしていく時間を設けます。

そこでは、上で書いたような追求を基にしながら、言葉に注目して話し、自分たちグループのテーマを決めていくでしょう。

【テーマ決定の理想図】



- ・それぞれのテーマから見出した内容は、どうやら共通点がありそうな気がする
- ・「今ある学校生活を一生懸命に生きる」というようにしたらどうだろう
- ・そのようにしたら、楽しむこともできるかもしれない
- ・楽しむだけでは歌詞に出てくる「真と善」も欠かせない
- ・それをふまえて、『『附中生』として生きる』にしよう

など

テーマが決まりましたら、企画書にまとめます。以下は上の内容を基に単純にした例です。

- 学校の紹介（校歌のイメージを伝える）
- 新入生とその保護者
- 学校説明会の場（5分程度）
- テーマは「附中生として生きる」。理由は……
- 主に学校の体育館
- 全員が登場するようにする
- カメラワークも意識する

(4) 企画のプレゼンテーション大会（2時間）

クラスで二つ、企画が優れているものを選ぶために、プレゼンテーション大会を行います。

前半と後半に分け、発表する20名（5グループ）と、出された企画を判断して優れているものに投票する20名で行います。それぞれの発表に対して質問や意見をなげかけていき、最終的に投票をして優秀企画賞を決めていきます。

この際、企画を判断していく基準は以下のようになります。

- ・校歌の歌詞を追求した結果たどり着くことができたテーマか否か
- ・そのテーマを基にして「何を」「どのように」表現するのかが明確であったか
- ・企画の内容をうまく伝えることができたか

子どもたちが「これから撮影していく」という流れになったところで、授業を終えます。

(5) 撮影（2時間）

決定した企画に沿って撮影を進めます。全員が撮影に参加できるように進めていきます。また、ここ授業者は、それぞれ手持ちぶさたな子どもがなるべく生じないように、気をつけて撮影を行うように伝えていきます。

撮影については、タブレットを利用し、そのデータを共有しながら、動画制作を得意とする子どもにも編集を任せつつ行います。

制作者の負担とならないように、ある程度の分業ができるように授業者が調整しつつ、編集作業を進めていこうと考えています。

(6) 上映（1時間）

撮影した内容を上映します。それぞれがミュージックビデオ制作の題材を通して得たことをまとめ、授業を終えます。そこにはきっと、以下のようなことが書かれていくことでしょう。

- ・草野心平の校歌を読み解くことで、イメージが変わった。卒業式で歌う機会があるけれど、何だか臨み方が変わりそうだ
- ・自分たちが創ったMVがこれから静岡中学校に来る人たちの目にふれ、自分たちが大事にしてきた文化が継承されていくようでうれしい
- ・校歌は、結局はどのような学校生活を送っているかによって捉え方が人それぞれ違うのだと追求をして気づいた。私たちが日々の生活をなんとなく過ごしていたら草野心平のメッセージをないがしろにしまっているかもしれないからだ。これからも学校生活で得たことを胸に生活していきたい
- ・仲間とともにMVを創ることを通して、自分が意見を言えばよりよくなることを知った。何事にも自分が積極的に向かっていくことで自分を成長させられるし、結果的に周りのみんなのためにもなっていくのだということを学んだ

など